

嵯峨天皇の皇子融が源の姓を賜わり、融の八世の孫源久が肥前国松浦郷に西下して、松浦氏を称し、松浦党の祖となった。久の長子である源直は、久安年間（1145～1151）に東山代の里に館を設け、政庁の鎮守として、一の宮青幡神社、二の宮白幡神社および宝積寺を創建したと伝えられている。尚政庁跡の堀の一部と石垣の一部が残っている（田尻俊三氏屋敷内）亦神社拝殿前の鳥居は田尻三代春種の寄進によるものである。

この青幡神社の境内中央にあるクスは、根回り27.7m、胸高幹廻り11.4m、樹高16m、枝張りは東西21m南北19.3mである。地上5mのところから三方に大枝が分かれ、四方に向かって枝葉が繁茂している。樹幹に空洞があるが、樹勢は旺盛であり、樹相も優美である。幹枝にマメツタが着生している。

県内におけるクスの代表的巨木として、昭和40年7月、県天然記念物に指定された。

